

特 集

2018年1月16日 新春トップセミナー

開会挨拶

(一社)生産技術振興協会 理事長 西本 和俊

皆様、新年あけましておめでとうございます。本日は年始早々のご多忙の中、本セミナーにご参加いただき、誠にありがとうございます。本日は来賓として大阪大学の西尾章治郎先生、記念講演をお願いした大阪観光局理事長の溝畑宏様にご臨席いただきました。厚く御礼申し上げます。

生産技術振興協会は今年で創立70周年の記念の節目を迎えました。70歳というのは人間の齢という古希に相当します。杜甫の詩の一説に「人生七十、古来稀なり」という言葉に由来した諺がありますが、最近は長寿化に伴って還暦、古希はまだ若いと言われます。一方で日本の企業の平均寿命は37年程度ということですから、当協会が70周年を迎えられたのは長寿の部類に入ると考えられます。このように当協会が永きにわたって活動を続けてこられたのも、ひとえに皆様方のご理解とご支援の賜物と感謝を申し上げます。

70周年ということですので、当協会の生い立ち、これまでの足跡について紹介させていただきます。当協会は戦後の復興期だった昭和24年、当時の大阪大学の総長ならびに医学部や工学部の教授、そして大阪経済界の有志の方々を発起人として、産学連携による産業復興を目的に開設されました。当時の設立の趣旨書をみると、次のように記されています。「終戦を起点とする我が国産業界の再建意欲は時とともに積極化し、昭和24年は終戦のこれが建設される一念として発足。最近にわたり過去を回顧するに、科学的生産方式の遅々たるが敗戦の重要な一因。先進諸国の間に伍して前進せんとする工業界は、科学性を基盤として秩序ある生産施設を生まなければならない」。このように記されています。その後の我が国の製造業は、このように述べられた趣意書



理事長 西本 和俊

の思想をまさに実践するがごとく、確実に高度化されました生産方式を積極的に導入することにより信頼性の高い製品を大量に生産し、低廉な価格で販売することで経済の復興に大きく寄与しました。その結果、我が国が経済大国へと発展したことは周知のごとくであります。その後2度のオイルショックがございましたが、その機においても製造業は生産技術を高度化させることにより高品質で信頼性の高い、かつ付加価値の高い製品を供給することで製造業が国の経済の屋台骨を支えるという構造を維持しました。

しかし近年は、ご承知のように円高基調によって生産拠点を海外移転が進んでおります。その結果、これまで得意としてきた分野、家電は言うに及ばずパソコン、カメラをはじめとする精密機器や精密な産業機器などの製品までが、海外からの逆輸入に頼る時代になりました。その結果、今後の日本の経済を支える工業生産は何かということで、現在は非常に苦しみながら模索をしている最中であります。一方、社会システムとして安心、安全な社会を求めるという志向が出てきました。その結果、工業製品に対してもこれまでにない高い信頼性や長期の健全性が求められています。地球環境保全の観点からは、

環境負荷低減、省エネルギーが重要な要求となっています。こうしたことに対応するため、例えばエネルギー関係では水素利用技術、電力関係では超臨界とか超超臨界発電の技術も検討されていますが、本格実用までにはかなり多くの課題が残されているようです。また新規分野として、AIとかロボットの活用、さらにはバイオ関係の技術、こういった領域もかなり発展してきておりますが、まだまだ日本の国の将来の主幹を支えるような技術までには成長していません。我が国が抱える喫緊の課題克服のためには、世界に先がけた技術のイノベーションが強く求められているというのが現状ではないかと思えます。こういったことを実現するためには、産学が協調して大学が持っている独創的、科学的なニーズと産業界のニーズとをうまくマッチングさせることが必要であります。

こうした観点から当協会は、産業界のニーズと大学の科学的なアプローチの情報交換をする場を通じて、喫緊の課題に尽力するための活動を続けております。例えば当協会では設立以来、季刊誌として『生産と技術』という刊行物を刊行しております。これは大阪大学の先生方の協力のもとに大学での研究成果、その他の科学的な話題を盛り込んだ冊子であります。これを通じて大学からの科学的アプローチを社会に対して発信しております。また昭和61年には当協会の中に企画委員会を設置し、当委員会の企画のもとに最新の技術話題をテーマにしたハイテクセミナー、産学連携シンポジウム、産学交流会などのイベントを共催もしくは主催して、新たな技術革新につながるような情報を提供しております。

当協会が平成25年に一般社団法人として認可されたのを機に、活動の視野を少し広げて、大阪経済活性化へのお手伝いをするに力を入れるようになりました。例えば気楽な情報交換の場として、身近な話題をテーマに意見を交わすフレンドシップサロン、本日のような工業技術とは少し離れたような話題に関するセミナーや講習会も実施しております。当協会の事業の1つとして大学院の学生の研究支援を目的に海外で開催される国際学会への渡航費用援助として、これまでに大学院生280名くらいに対し合計約3千万円の助成をしております。

このように当協会はこれまで産学の間立ち、大学が持つ科学的な技術ソースと企業が持っているニーズとの橋渡しをするような場を提供することを通じて、産業界の発展に寄与すること、ならびに大阪経済の発展のためのお手伝いをするを目的に活動を続けてきております。今年70周年を迎えたことを機に、心をさらに新たにして、こうした活動に精進していく所存であります。今後とも相変わります、当協会に対してご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

本日は大阪観光局の溝畑様に講演をしていただきますが、大阪の活性化、大阪を元気にするようなお話をしていただけるのではないかと期待しております。本日は講演を聞いていただき、気持ちよく1年をスタートしていただければ幸いに思います。ご参会の皆様のご健勝とご多幸をお祈りしまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

